

平成27年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5	-	4	-	6
事務事業名	ごみ収集・焼却等事業				担当課係	環境衛生センター			
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」			記入担当者				
	中項目	①快適に暮らせる生活基盤の整備			内線等				
	小項目	5. 生活関連施設の整備			E-mail				
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	経常事業			
事業予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費			
	目	2	塵芥処理費	事業	2他	2臨時職員・3焼却炉関係費・4収集車両関係費・6一般事務費			
開始年度	昭和	58	年度	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律				

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市内の家庭ごみ（一般廃棄物）の収集・焼却処理、指定業者により搬入される事業系ごみ（事業系一般廃棄物）の焼却処理等を行うため。
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 一般廃棄物の収集運搬及び焼却処理を適切かつ安定的に実施し、市民の生活環境の向上及び公衆衛生の保持を図る。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 市内を6地区に割付け、家庭ごみ収集日程に基づき排出された一般廃棄物を直営で収集・運搬し、可燃ごみについては焼却している。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 一般廃棄物の収集・運搬・処理は地方自治体の責務である。本市においては昭和36年より現在の場所でのごみの焼却を開始し、昭和58年より現施設を移転させ、その後、平成11年からダイオキシン類対策工事を経て、適切かつ安定的にごみ収集及び焼却を実施し公衆衛生の保全を図ってきた。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果
	ごみ処理実績	一般廃棄物の年間処理量						
トン	単位	H26	H27	H28	H29	目標年度 目標値		
	目標	14,830	14,689	14,551	14,412	平成30年度 14,322		
	実績	14,938	14,434					
	達成度	100.7%	98.3%					

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H26	H27	H28	H29	指標の説明
	可燃ごみ焼却量	計画	トン	12,325	12,207	12,088	11,970	
資源ごみ(資源化)	実績		12,544	12,064				
	計画		783	782	781	779		
不燃ごみ処理量	実績		678	657				
	計画		1,722	1,700	1,682	1,663		
	実績		1,716	1,713				
	計画							
	実績							

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	関連事業費	26年度決算		27年度決算		27年度予算		28年度予算	
		A	直接事業費	221,547,750	215,738,656	216,464,000	220,393,000		
財源内訳	A	国県支出金							
		地方債							
		利用者負担	57,535,819	56,027,200					
		一般財源	164,011,931	159,711,456					
B	B	人件費 ①×②	6,277,972	7,457,518					
		職員平均人件費①	6,277,972	7,457,518					
		従事した割合②/人	1.00	1.00					
A + B		227,825,722	223,196,174						
単位コスト	活動指標の説明		処理費用/処理量	処理費用/処理量			備考		
	活動指標1 単位当たりコスト		15,251	15,463			平成26年4月1日現在 人口40,333人		
	市民一人あたりのコスト		5,649	5,599			平成27年4月1日現在 人口39,866人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 次期焼却施設等の中間処理施設整備について、広域処理での協議を平成24年度から徳島県東部7市町村で続けてきたが、佐那河内村長選挙での建設候補用地の白紙撤回に伴い解体された。その後、徳島市・佐那河内村を除く5市町での広域に向けた協議を進めていたが、平成28年3月での徳島市長選での新市長の誕生に伴い、再度、徳島市に向けて徳島東部地域環境施設整備推進協議会の継続協議を打診した結果、平成28年6月より佐那河内村を除いた6市町での協議を再開している。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 適切な収集業務の実施、将来的にも安定したごみ処理を継続していくこと。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	市民の良好な生活環境を維持するうえで、必要不可欠な業務であるため必要性は高い。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="checkbox"/> ① 市が行わないといけない	一般廃棄物の処理は、市が総合的な責任を有する。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="checkbox"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> ① 効率的である	ごみの減量化、再資源化を実施しており、ごみの分別等については冊子の配布や広報誌による啓発を行っている。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="checkbox"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="checkbox"/> ① 緊急性が高い	市民の良好な生活環境を維持するうえで、必要不可欠な事業である。
	<input type="checkbox"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="checkbox"/> ① 成果が上がっている	ごみの分別の徹底により、再資源化率が向上していることから、可燃ごみ処理量が減少傾向にある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="checkbox"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	効率的なごみ処理を継続していくうえで、収集に係る人件費、ごみ処理経費の削減について検討していく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	2	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由	市民生活の公衆衛生を保持するうえで、本事業は必要不可欠であるが効率的・効果的な方法を検討しつつ、現状のまま継続する。		
		2 現状のまま継続する	60～79 点					
		3 改善・効率化し継続	40～59 点				評価点	86
		4 終期設定し終了	20～39 点				1	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下					

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	2	1 拡 充 す る	判定説明	ごみの収集及び処理は、市民生活に密接する重要な事業であるため、現状のまま継続すべきである。しかしながら、事業費が多額であることから効率性、経済性を踏まえ経費削減を検討していく必要がある。
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 終期設定し終了		
		5 完了・休止・廃止		